

J-PARC NEWS

Japan Proton Accelerator Research Complex

大強度陽子加速器施設

平成25年11月29日発行

発行元: 日本原子力研究開発機構・高エネルギー加速器研究機構

J-PARCセンター

〒319-1195 茨城県東海村白方白根2-4 Tel: 029-284-3731

1. J-PARC事故後の取組に関する住民説明会を開催(10月31日～11月2日)

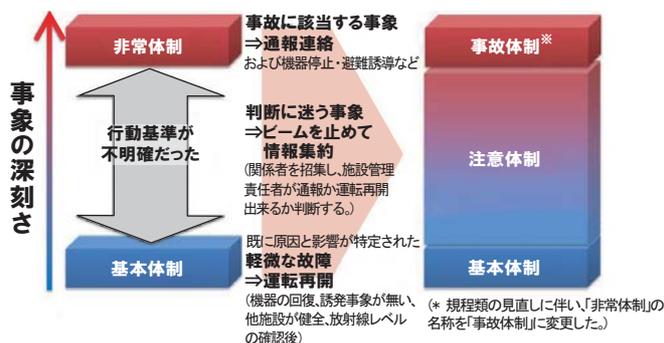
ハドロン実験施設の事故を踏まえ、再発防止などの取組に関する住民説明会を、東海村で3回開催しました。延べ85名の方にご参加いただきました。J-PARCセンターより改めて事故についてお詫び申し上げ、事故後のJ-PARCセンターが取り組んできました再発防止策、安全管理の強化策、金標的の調査について報告致しました。皆様からの多くのご質問にお答えするとともに、貴重なご意見を伺いました。



真崎コミュニティセンターでの様子
(11月1日)

2. 放射線業務従事者教育訓練(11月7日)

J-PARCセンターでは事故を受け規程類の見直しを行い、放射線障害予防規程などの改正、新たに事故等通報規則の制定を行いました。これらの規定の改定内容を周知するため、7日に放射線業務従事者教育訓練を行い、受講者の理解度を確認するテストも実施しました。また、原子力規制庁の担当者が教育訓練の状況を視察され、その後、諸規程の改定内容、事故再発防止策の実施状況などの現地調査が行われました。



異常の兆候に対応する「注意体制」の新設



教育訓練の会場の様子

3. 「J-PARC非常事態総合訓練」を実施(11月15日)

J-PARCセンターは事故再発防止対策として、異常の兆候を見逃さないよう、従来の「基本体制」と「非常体制」の間に「注意体制」を新設しました。今回の訓練は、物質・生命科学実験施設(MLF)で水銀漏えいを感知するモニターが異常信号を出したという想定で実施されました。注意体制を設定、現場での状況確認、判断により事故体制に移行する、新しい緊急時の手順に従って訓練が進み、MLFの制御室に事故現場指揮所、原子力科学研究所の安全管理棟に事故対策本部を設置しました。この訓練には、茨城県や周辺自治体関係者をご視察に来られ、プレスによる取材も行われました。



避難したユーザーの放射能汚染検査訓練
(MLF 玄関前)

4. 文部科学省 群分離・核変換技術評価作業部会(10月23日、30日)

標記部会では、本年8月より高レベル放射性廃棄物に含まれる長寿命放射性核種の群分離・核変換技術研究の研究開発の妥当性や今後の進め方などについての評価、検討を進めてきた。10月23日に開催された第4回会合では、J-PARCに建設予定の核変換実験施設の整備を含めた今後の研究開発のロードマップ等が審議され、同月30日の第5回会合では、中間的な論点のとりまとめ案が審議された。核変換実験施設については、次のステージに移行していくことが適当とされており、施設の整備に向けた方向性が示された。



第5回会合の様子(10月30日)

5. 日豪中性子科学ワークショップ「Sharing Science with Neutrons」(11月5-6日)

標記ワークショップ(WS)が、オーストラリアの科学アカデミー(AAS)、原子力科学技術機構(ANSTO)主催で、シドニー郊外のANSTO原子炉施設OPALにて開催された。WSは、ANSTOとJ-PARCの間で中性子科学の分野の協力協定が締結されるのを機会に開かれたもので、両国の主だった中性子科学の研究者が参加し、日豪協力への大きな期待と熱意が窺われた。双方の施設や装置の最新情報についての報告、それぞれの専門分野の先端的研究成果についての講演と意見交換が行われた。

6. 平成25年度茨城県中性子利用促進研究会・磁石材料のその場構造解析分科会(10月22日)

MLF中性子ビームラインBL20の茨城県材料構造解析装置「iMATERIA」では、高温雰囲気やガス雰囲気などの諸条件下における磁石材料のその場構造解析研究が計画されており、茨城県プロジェクト研究と元素戦略プロジェクト拠点は、その基礎研究を進めている。今回、これら研究を推進するため東京で分科会を開催し、iMATERIAの性能、磁気構造解析の基礎知識、粉末磁気構造解析プログラムの利用例などについての報告と、活発な質疑応答が行われた。



iMATERIAについて装置責任者が報告

7. 国際協力による、 ^3He 中性子検出器の代替器・シンチレータ検出器の開発

MLFなどの中性子実験装置に使用される ^3He 中性子検出器は、ヘリウム3ガス不足に伴い代替検出器の開発が必須となっている。J-PARCが参加して進められている国際協力で、開発を先導している英国ラザフォード・アップルトン研究所(RAL)や、ドイツユーリッヒ研究所から関係者が来訪、J-PARCが独自開発し実用化が進む検出器など、相互の開発状況について情報交換を行った。



BL18で装置責任者とNigel Rhodes氏

8. ご視察等

- 10月24日 英国ラザフォード・アップルトン研究所(RAL)中性子・ミュオン研究施設 ISIS Nigel Rhodes 検出器開発グループリーダー他
- 10月30日 Michael Turner APIF 議長、Hans-Juergen Donath 氏(DESY)
- 11月7日 ドイツユーリッヒ研究所 Ralf Engels 検出器開発グループリーダー
- 11月13日 八戸良城 青森県エネルギー総合対策局長
- 11月14日 村田憲俊 北海道道議会議員
- 11月21日 磯谷桂介 文部科学省大臣官房審議官